

■米国：2015年の前半に地磁気嵐のリスク

2013年8月21日付業界紙によれば、7月20日発表された英国に本拠を置く保険会社ロイズ社による報告書「北米電力系統への太陽嵐のリスク」では、ワシントン D.C.からニューヨーク市を結ぶ地域が地磁気嵐によるトランスの損傷による停電のリスクが最も高いとされ、危険性の高い他の地域は、中西部北部からミシガン州、ウィスコンシン州、他はメキシコ湾沿岸地域とされている。この報告書によると、現在の太陽周期では、地磁気嵐のリスクは2015年の前半にピークを迎えると予測されている。北米のリスクのある地域で16日間から2年間にわたって、2000～4000万人の人々に対して、停電がおこる可能性がある。記録上で最も強烈な太陽嵐は、キャリントン・イベント (the Carrington Event) といわれ、1859年8月28日から9月2日の間に発生した。その当時、電気は広く使用されなかったものの、最近では1989年3月、ケベック磁気嵐として知られる地磁気現象が、2分未満ではあるが、ハイドロ・ケベック社の電力網を停電させた。結果として地磁気誘導電流は、ハイドロ・ケベック社の電力系統の保護システムに支障を与えるのに十分であり、9時間600万人以上が停電を被った。ロイズ社はこの経済コストを数百億ドルと推定している。